

「和服の基本的な着装」とは、どのようなことを指導すればよいか。

○ 和服の着装については、浴衣など和服の基本的な着方を調べたり着用したりすることを通して、和服と洋服の着方（打ち合わせ、おはしよりと対丈、帯による固定、履き物）や構成（平面構成と立体構成、衣服の部位の名称）の違いに気付かせたり、地域に伝わっている衣生活を調べたりするなどがある。

○ 指導する際に、指導者が知っておくと参考となる内容について以下に示す。

※ 打ち合わせ

和服の場合は、通常は男女とも右前にして着用し、死に装束の場合のみ逆にする。洋服の場合は、男は右前、女性は左前である。右前とは右手が懐に入る着こなしを示している。このような打ち合わせが生まれた理由については、諸説があるので生徒に自分たちで調べさせるとよい。

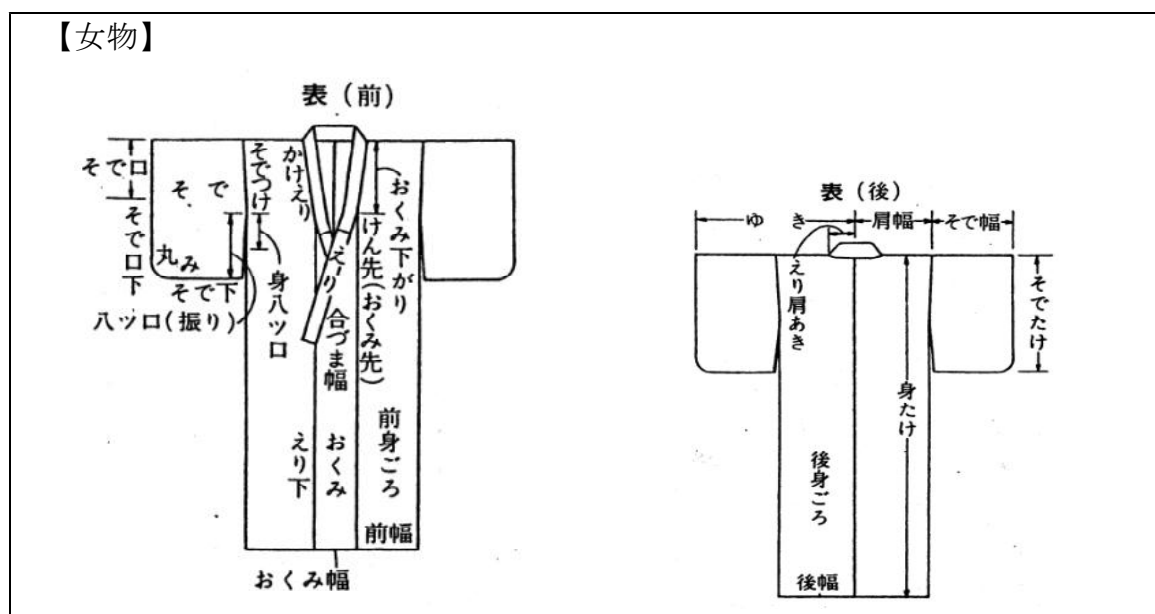
※ おはしより

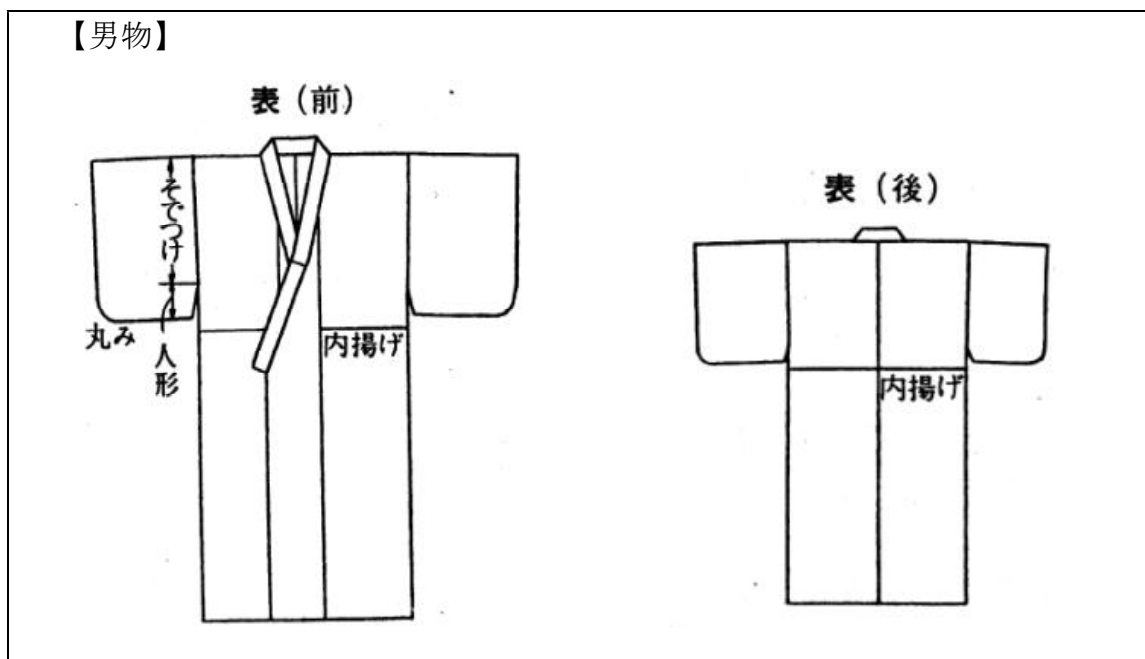
着物の裾をはしよること。女の着物には、丈を長く、おしより分があり、着用する際は、腰のあたりでたくし上げ、腰紐で締めてちょうどよい着丈にする。

※ 対丈

ついたけと読む。身の丈と同じに布地を裁って衣服を作ること、男物の和服は対丈である。

※ 和服の部位の名称（ひとえ長着の場合）





（出典『家庭科図解集』，教育図書，1980）

※ 鹿児島県の織物

大島紬（奄美大島），芭蕉布（与論島），葛布（垂水），芙蓉布（甕島）等